令和８年度第２回住吉区区政会議

１　日時：令和８年９月17日（木）　午後６時30分～午後８時41分

２　場所：住吉区役所４階　大会議室

３　出席者

委員：西野雄一郎委員、上村政樹委員、一瀬圭子委員、伊藤美世子委員、河嶋利彦委員、岸本尚子委員、栗野由佳委員、齋木進太朗委員、相良誠委員、田中弘委員、豊嶋貴子委員、仲本房司委員、西田和人委員、藤井淳彦委員、藤見明生委員、宮本和俊委員、山田和成委員、綿森咲子委員

区役所：橘隆義（区長）、西畑彰人（副区長）、小林資明（総務課長）、中野泰裕（政策推進課長）、山本且之（教育文化課長）、金谷孝政（地域課長）、上原克彦（住民情報課長）、芝田博美（保険年金課長）、稲岡訓規（福祉課長）、山尾貴彦（保健こども家庭課長）、野崎真実（保健主幹）、谷田和彦（生活支援課長）、西丈児（政策推進課長代理）

４　議題等

（１）報告事項

・令和８年度第１回住吉区地域福祉専門会議について

・令和８年度第１回住吉区防災専門会議について

・令和８年度第１回住吉区総合教育会議について

（２）その他

・グループディスカッションについて

５　発言者及び発言内容は以下の通り

【西（司会）】　ただいまより、令和８年度第２回住吉区区政会議を開催いたします。

本日はお忙しい中、住吉区区政会議にご出席いただきありがとうございます。司会を務めさせていただきます政策推進課長代理の西でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たり、住吉区長の橘よりご挨拶申しあげます。

【橘区長】　　皆様、こんばんは。区長の橘です。

西野議長をはじめ、委員の皆様方におかれましては、ご多用の中、また夜の遅い時間から区政会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、平素より住吉区政の推進に温かいご理解とご協力、そして、ご支援を賜り、この場をお借りいたしまして、厚くお礼申しあげます。

さて、８月１日付で公募委員として委員にご就任をいただきました岸本尚子様におかれましては､本日よりご出席を賜ってございます｡後ほどご紹介をさせていただきますので､岸本委員、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題でございますが、報告事項としまして、各種専門会議の概要報告、そしてその後、委員の皆様からのご意見を中心に設定をいたしましたテーマを基にグループディスカッションを行っていただくこととしてございます。グループディスカッションには、大阪公立大学の学生の皆さんにも参加をいただきます。学生の皆さんには貴重な夏休みにご出席をいただき、心から感謝申しあげます。誠にありがとうございます。後ほど委員の皆様と一緒に各テーマに分かれて意見交換をいただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日も委員の皆様、そして、学生の皆さんには忌憚のないご意見を賜りたいと思いますので、最後までどうぞよろしくお願いいたします。

【西（司会)】　　会議を始めるに当たり、皆様にお願いがございます。

この区政会議は条例に基づく会議となっております。後日、会議録等を公開する関係上、録音並びに写真撮影をさせていただきます。

また、大阪市ではデジタルツールを最大限活用した区政会議の推進の取り組みの１つとして、会議の様子を動画配信にて公開するウェブ傍聴の実現をめざしております。今回の区政会議ではライブ配信を行っており、会議終了後は録画配信を行います。個人のプライバシーに関することや中傷的な発言など、そのまま配信することが妥当でないと判断した場合は、会議終了後、録画の編集を行い、発言を修正、削除して会議録を作成することがあります。

次に、令和８年８月１日付で区政会議委員の補充がございましたので、報告させていただきます。

公募委員として岸本委員です。

【岸本委員】　　岸本です。よろしくお願いします。(拍手)

【西（司会)】　　傍聴の皆様には、受付でお渡しした遵守事項をお守りいただきますようお願いいたします。

続きまして、市会議員の皆様におかれましては、条例第８条第１項に、区政会議における議論

に資するために必要な助言をすることができると規定されております。

本日お見えになられている市会議員をご紹介させていただきます。

中田議員です。

【中田議員】　皆さん、こんばんは。よろしくお願いいたします。

【西（司会）】　井上議員です。

【井上議員】　皆さん、こんばんは。お疲れさまでございます。

【西（司会）】　伊藤議員です。

【伊藤議員】　こんばんは、よろしくお願いいたします。

【西（司会）】　続きまして、条例第８条第２項には、区長は必要があると認めるときは、関係者の区政会議の出席を求め、その意見を聞くことができると規定されております。本日は、大阪公立大学の学生の皆さんにお越しいただいております。後ほど実施するグループディスカッションでご意見をお伺いします。

ここで、本日の委員の出席状況ですが、委員定数22名のところ、現在17名ご出席です。条例第７条による定足数である定数の２分の１以上を満たしておりますことを報告いたします。

それでは、本日の区政会議の進め方を説明いたします。

まずは報告事項として、各種専門会議について関係課長から報告していただきます。

次に、皆さんに３つのグループに分かれて意見交換を行っていただきます。

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

事前に区役所からお送りしている資料の右上に番号がついております。資料は①から⑧と本日の配付資料として、机上に資料⑥－２を置いております。

資料の不足等はございませんでしょうか。

なお、資料⑦については、前回の区政会議で皆さんからいただいたご意見について、当日の回答を記載したものであり、資料⑧については、今回、一瀬委員、藤井委員より事前にいただいたご意見について回答を記載したものです。本日、議論等は行いませんが、またご確認いただきますようよろしくお願いいたします。

本日の会議は20時30分までを予定しております。限られた時間となっておりますので、円滑な進行にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、以降の区政会議の議事進行を西野議長にお願いいたします。

【西野議長】　よろしくお願いいたします。

まずは報告事項です。区役所から説明をお願いいたします。

【稲岡福祉課長】　福祉課長の稲岡でございます。

私から報告事項１点目、令和８年度第１回地域福祉専門会議についてご報告いたします。

配付資料の③をご覧ください。

４番目のところの議題でございます。報告事項４点、これまでの取り組みと見えてきた課題について、地域見守り支援システム進捗状況について、地域福祉活動に関するアンケート結果について、地域座談会の実施結果について。議事といたしましては、『住吉区地域福祉ビジョンVer.4.0』素案についてをご議論いただきました。

報告事項のご意見につきましては、裏面をご覧ください。

ご意見といたしましては、地域福祉は縦割りではなく、包括的支援と場づくりが重要である。アンケートは地域別の回答のばらつきなど、分析する余地がある。地域座談会の成果を区民により周知する工夫が必要。高齢者や男性が参加する場をたくさん作ることが大切とのご意見をいただきました。

続きまして、議事『住吉区地域福祉ビジョンVer.4.0』素案についてでございますが、事務局より、現行のビジョンVer.3.0の基本理念と基本目標を継承しつつ、各会議体や小委員会での意見を踏まえて作成させていただきました。

基本目標１と２、それぞれの４つのスローガンごとにスローガンを一言で言うと、基本目標１の①については『きっかけづくり』、②は『集う場づくり』、③は『役割づくり』、④は『情報発信』。基本目標２については、①点目として『個人の権利を守る』、②点目として『気づきと共有』、③点目として『支援のネットワークづくり』、④点目として『支援者同士の連携』であることをご説明いたしました。

委員の皆様からのご意見といたしましては、民生委員や見守り等、善意のボランティアに依存しており後継者がいない。「やる気だけに頼る」形では継続が難しい。「楽しく」関われることが重要で、重くなると参加が難しい。年齢・障がい・国籍等に関係なく参加できる場、共に対話し共に過ごせる場が重要である。地域座談会がそういった場として活用できる。支援上、どこまで情報共有できるかは常に課題であり、「一緒に考える」ことを目標に入れる意義はあるが難しさもある。福祉課題の複雑化で支援が長期間に及ぶことが多く、支援者側のケアや支援者が話し合える場が必要である。子どもに関する課題の見え方について、仕組みづくりでは子どもに関してよく取り組まれているが、まちづくりの部分では、子どもについて取り組みが少ないといったご意見をいただきました。

桃山学院大学教授の小野アドバイザーからは、地域福祉計画は行政計画である一方、住民参

加・地域参加が不可欠で、「自分たちの計画・ビジョン」にしていく姿勢が重要。「現状と課題→これからの目標」となっているが、ビジョンとしては「これからの姿」をより前面に出す工夫が必要。スローガンが「文学的」で分かりにくく、「一言で言うと」の説明のように読者に伝わる表現への工夫が必要とのご意見をいただきました。

小野アドバイザーをはじめ、専門会議委員の皆様からのご意見を踏まえ、10月に開催いたします第２回地域福祉専門会議、12月から１月にかけてのパブリックコメント、２月に開催いたします第３回地域福祉専門会議を経て、『住吉区地域福祉ビジョンVer.4.0』の令和９年４月からのスタートにつなげてまいります。

報告事項１点目、令和８年度第１回地域福祉専門会議については、以上でございます。

【金谷地域課長】　引き続きまして、地域課長の金谷です。

私のほうから報告事項２点目、令和８年度第１回住吉区防災専門会議についてご報告をさせていただきます。

配付資料④をご覧ください。

７月１日に実施をしております。報告事項といたしまして、２点、前回の防災専門会議での意見に対する対応方針、住之江抽水所雨水ポンプ停止による対応についてご報告をさせていただきました。

議題につきましては、３点、令和８年度の住吉区の防災の取り組み、住吉区総合防災訓練、防災情報紙全戸配布についてご意見をいただいております。

主な意見といたしまして、裏面でございますが、まず、令和８年度の防災の取り組みにつきましては、大和川氾濫等の水害に備えた他区との連絡体制の強化、また、乾電池、女性用品、清掃用品等の避難所での備蓄の強化。

２つ目、総合防災訓練につきましては、今年度の訓練につきましては、南海トラフ巨大地震に加えまして、あわせて同時期に水害が発生したという想定で実施する旨、ご説明をさせていただき、それに対し、訓練の想定や流れについては丁寧に地域に説明をする必要がある。また、水害を想定し、上階へ移動する訓練を行う場合、車椅子利用者の移動方法など様々な状況を想定して訓練を行う必要があること。また、大規模な訓練であるのでぜひプレス発表をすべきなどのご意見をいただきました。

３つ目の防災情報紙全戸配布につきましては、警戒レベルについて気象庁が発表する情報と大阪市が発令する警戒レベルが混同されるおそれがあるので工夫が必要。また、感震ブレーカーの説明の追記などご意見をいただいております。

これらを加えまして、防災情報紙につきましては、年内に全戸配布する予定としております。

報告事項２点目は以上です。

【山本教育文化課長】　教育文化課長の山本でございます。

私から報告事項３点目、令和８年度第１回住吉区総合教育会議について報告をいたします。

配付資料の⑤をご覧ください。

７月10日に住吉区総合教育会議を開催いたしました。第１回目の会議ということで、最初に分権型教育行政の仕組みについて説明を行い、引き続きまして、住吉区が実施する主な教育・子育て関連事業について説明を行いました。その後、委員の皆様のご意見を伺いたく、２つのグループに分かれグループディスカッションを行い、区役所が小学校、中学校へ行う支援について、よりよい施策の実現につなげるアイデアを頂戴いたしました。

グループＡにつきましては、小学校への支援について意見交換をいただきました。背景といたしましては、小学校を対象に漢字検定の検定料を支援しているのですが、受検料の値上げがあり、予算額をオーバーしてしまう事態に至りました。そうしたことから、仮に漢字検定の受検料支援以外の支援を行うとした場合、どのような支援がよいとお考えになるかについてご意見を頂戴いたしました。

裏面をご覧ください。

ご意見といたしましては、２学年連続で受けられることに意義があるので１学年になるのは残念。検定に向かってみんなで一緒に頑張って合格したという達成感を得て喜び合える体験がよい。漢検に限らず、達成感が得られるものがよいのではないか。

また、住吉区には、素敵な企業、取組み、歴史・文化があるので、「地元を知る」をキーワードに、小学校の段階からキャリア教育等に取り組めるとよいのではないかというご意見を頂戴いたしました。

グループＢにつきましては、中学校への支援について意見交換をいただきました。背景といたしましては、中学校を対象に行っている「不登校生徒の校内における居場所づくり支援事業」について、２年にわたって居場所教室の整備のための物品購入支援を行い、環境整備も一定整うと考えられることから、それに代わる新たな支援についてどのようなものがよいとお考えになるかについてご意見を頂戴いたしました。

ご意見といたしましては、サポートルームについて、空間的・物理的には整ったが、その先を考える時期に来ているのではないか。不登校になった理由は様々であり、きめ細かい対応が必要ではないか。ボランティアやスクールカウンセラーといった方が定期的に来てくれるようなシ

ステムができればいいのではないか。

また、生徒が少なくなり部活動の合同チームや拠点校方式での活動が展開されてきている。公立大学杉本キャンパスのグラウンド等で部活動をしている大学生とコラボレーションができればいいのではないか。

これまで中学校までは区とつながって支援してきた子どもが、高校進学によりつながりが切れてしまう。切れ目のない支援が高校以降もできていければよいのではないかというご意見を頂戴いたしました。

今回いただいたご意見、そして、各学校のご意見も頂戴しながら、小学校、中学校への支援を検討してまいりたいと思っております。

報告事項３点目は以上でございます。

【西野議長】　ありがとうございます。

ただいまの報告事項について、何かご意見、ご質問等はございますでしょうか。

ご意見、ご質問がある場合は、本日、いつもと違って席の配置が違っていまして、お名前のプレートがありませんので、ご質問のある方はお名前をおっしゃってから発言をお願いできればと思います。いかがでしょうか。どのような内容でも結構かと思います。本当に気になるところ、ご質問でも結構かと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に行きたいと思います。

続きまして、委員の皆さん、それから大阪公立大学の学生の皆さんに意見交換を行っていただきたいと思います。各グループの進行役となるファシリテーター役と書記役、発表役は今回も区役所職員にお願いをしております。

それでは、意見交換を行っていただく前に区役所から説明をお願いいたします。

【中野政策推進課長】　政策推進課の中野です。

私から、これから皆さん方に意見交換していただく内容について説明させていただきます。

配付資料⑥－１と⑥－２をご覧ください。

まず、資料⑥－１です。大きなＡ３の資料になりますが、住吉区では住吉区将来ビジョンにも掲げておりますとおり、地域コミュニティや福祉の充実、子育て世代、若者への支援等、様々な課題解決に向けた取り組みを実施しております。そこで今回は、様々な現場で日々ご活動されている区政会議委員の皆さん、大阪公立大学の学生の皆さんに「すみよいまち“えーとこ住吉”」の実現に向けたアイデア出しを行っていただきたいと考えております。

今回はＡからＣの３つのグループで、事前に委員の皆様にご提出いただいたアンケートを基

に区役所にて各グループの討議テーマを設定させていただきました。

Ａグループでは、「住吉で安心して暮らし続けるために、困りごとを減らすには」というテーマで、子育て世代や高齢者が安心して暮らせるまちをめざし、日常の困りごとや不安を減らすためのアイデアを考えていただきます。

次に、Ｂグループでは、「区民みんなが無理なく参加できる、地域との“つながり方”」というテーマで、年齢や立場を超えて、無理なく関われる地域づくりや助け合える関係づくりのためのアイデアを考えていただきたいと思っております。

次に、Ｃグループでは、「住吉の魅力をもっと伝え、必要な情報が行き渡るまちにするには」というテーマで、住吉の魅力を発信し、誰もが必要な情報を受け取るようにするための方法や工夫を考えていただきます。

このように各グループごとに設定したテーマを基に意見交換していただきますが、事前に委員の皆様方からいただいたご意見を抜粋してまとめたものを⑥－１の資料の真ん中の欄に記載しております。

また、今回参加いただいている公立大学の学生の皆さんにも、討議テーマに対する事前アンケートをさせていただき、いただいたご意見をこちらは右の欄にまとめております。グループディスカッションでは、委員の方々と学生さんたちの事前意見も参考にしながら、皆さんでアイデアを出し合っていただきたいと思います。ここでいただいたご意見は、来年度以降に進める次期将来ビジョン策定に向けた現状把握の材料としても活用させていただきたいと考えております。

なお、意見交換の際は実現可能性であるとか、また、他の方の意見への１つ１つの評価などはせずに、批判厳禁で自由な発想でアイデアを出していただきたいと思います。

資料⑥－２は、グループごとの参加者名簿でございます。これからグループディスカッションを始めていただきますが、始めるに当たって、学生の方々は特に緊張もされていることだと思いますので、グループの中で最初にアイスブレイクも兼ねて自己紹介してもらってから進めていただければと思います。各グループに区役所職員が入りまして、進行役、記録係、発表と務めさせていただきます。

それでは、職員の皆さんは各グループに移動して、グループディスカッションを進めていただきますようお願いいたします。

【西（司会）】　それでは、これより区政会議及びライブ配信を一旦中断して、20時３分まで意見交換を行っていただきます。議長、副議長、大阪公立大学の学生の皆さん、区役所職員はそれぞれのグループに移動をお願いします。

（グループディスカッション）

【西野議長】　これより区政会議を再開します。

本当に大変盛り上がっている様子を伺っておりました。直接お話を伺う機会はこれまでなかったんですけれども、すごく参考になりました。区役所の皆さんも本当に盛り上げていただいてどうもありがとうございます。

それでは、本日各グループで意見交換をしていただいた内容を皆さんで共有していただくために、発表役の職員の方、ご報告いただけますでしょうか。

まずは、Ａグループの報告をお願いいたします。

【山尾保健こども家庭課長】　Ａグループの発表を担当します保健こども家庭課長の山尾でございます。座って報告をさせていただきます。

Ａグループでは「住吉で安心して暮らし続けるために、困りごとを減らすには」がテーマでございました。自己紹介の後にいろいろ話し合いを始めるに当たって、自分の経験などを基に子育て世代や高齢者の困りごとや不安に思うことをいろいろ挙げていただきまして、まず、顔の見える関係が非常に大事ではないのかと。例えば、地域でやっていらっしゃる百歳体操に参加してきていただければ声はかけやすく、そこから「困りごとはないか」と聞いたりすることはできるのではないですかということで、また、例えば困りごとで「自転車のルールが変わってよう分からん」とか、そういった話になればまた警察に来てもらって、体操の後にちょっと説明していただけるとか、そういったこともありまして、そんな感じでいつでも地域の方が通っていただける場所があるのが重要ではないかというお話もございました。

また、地域での実感といたしまして、困りごとの質問が少ないのではないかと。健康マージャンを例におっしゃっていましたけど、マージャンをやると多くの方に来ていただけるんだけど、来る人は元気で悩みもないのではないかと。逆にそういったところに来られない、来ない方に悩みがあるのではないか、そういった人をどうやって見つけるかが難しいのではないかということでございました。

また、ご家族の体が動かせない状態の話を例にしていただきまして、たまたま家族が近くにいれば気づいて助けることはできるけども、助けを必要とする方が外出できないというケースがあれば困ってしまうので、大変ではないかなということでした。あと、外に出ない人はなぜ出ないのかという考えでいくと、理由は病気や何も用事がないとかいろいろあるんですけども、結局行く場所がないといったところがあるのではないかと。仕事を長らくされてきまして、定年となって仕事を辞めたので、今度はいきなり地域へ入っていろいろ活動しようかなというのはなか

なか難しいのではないかと。逆に言いますと、仕事を辞めたばかりの人でも外出したくなるような場所が地域にあればいいのではないかという話もございました。その話の流れで、やっぱりどこかに行きたいという意欲は非常に大事だという意見もございまして、結局何でもいいんです、買物でもいいんですけども、外出をする、希望をかなえてあげる、そういったことで健康的になったこともあるというお話もございました。

その後にコミュニティづくりも大事だねという話になりまして、そういった事例をお伺いしまして、西野先生のほうから、個人で図書館を作るのが流行っていると。図書館を無料にするとなかなか遠慮する部分もあるので、少額でもいいので有料のほうが行きやすいのではないかとか、要はそういった取っかかりがあれば緩やかにでも人がつながっていくといったお話もいただきました。

また、区役所のそばにもおうちの前に本を出している方がいらっしゃって、そういったのも増えていくと小さな取っかかりからいろいろな話題がつながって、例えば、子育て世代の方が仲よくなるとか、いろいろあるのではないかというお話もいただきました。

あと、お年寄りの方が手作りで物を作って家の前とかに並べて、通りがかりに興味を持った方に作り方を教えてあげるとか、そういったこともコミュニティづくりになっていくのではないかというお話もいただきました。あと、やっぱり最近の若い方、昔は若い方も仲よく地域でというイメージがあるんですけども、最近は時代が変わってきて若い方とのつながりが減っているというお話をいただきました。

あと、学生さんのほうに若者の今の情報源の話をお伺いしまして、そこから地域の人にどうやって伝えるのが効果的かという話になりました。まず、２人の学生さんがいらっしゃいまして、お一方は地域の情報誌を見ていらっしゃると、そういったものをよく見ればいい情報もあるということでした。また、地域の方とのコミュニティで言えば、本当に挨拶をするだけでもいいので、地域の方はもうちょっと意識をすればいいのではないかなというお話もいただきました。

続いて、我々、区役所の職員としては、ホームページやＳＮＳとかになるのかなというイメージを持っていたんですけども、やっぱりホームページは自分で探さないといけない。あと、ＳＮＳというのは自分が興味を持っている情報に偏ってしまうということで、情報が届かないんです。だから逆に家に届く広報紙のようなものが有効ではないですかというご意見もいただきました。

あと、若者の話でいきますと引っ越して来られた方はやっぱりちょっと難しいかもしれないんですけども、もともとずっと住吉区に住んでいらっしゃる方は、その方が大人になっても地域

の活動とかに入りやすいのではないかなということをお伺いしました。

続いて、子育て世代のつながりのほうの話になりまして、逆にずっと地域に住んでいたとしても、私立の学校に行ってしまうとちょっとつながりにくいといったお話もいただきました。また、最近で言いますと子どもさんに来ていただきたくて祭りでお菓子とかを配るんですけども、子どもが少ないのか、習い事で忙しいのか、配るお菓子が余ってしまうと。となりますと役員さんといいますか、祭りを企画していた方のやりがいもなくなってしまって、だんだん魅力がなくなっていくかもしれないといったお話も伺いました。

あと、いろんな事例もいただきまして、特別養護老人ホームでふれあい喫茶をやって、そこに通っていたことによってケアマネジャーさんとつながって、相談につながったケースですとか、いろいろご意見もいただいたところです。

最後になりますけど、お祭りとかイベントにどうやったら子どもが来るかというアイデアをお聞きしますと、例えば、中学校を会場にすればそこに通っている中学生には情報が必ず届くので、そうしたほうが集まるのではないかと。実際、小学校でやっていらっしゃるイベントでは、今、結構大勢来ているよねという話にもなりまして、地域でやるとちょっと少ないイメージもあるけど、やっぱり学校でやるのは有効なのかなと。一方で、子どもが少ないからといって縮小するのではなくて、やっぱりイベントは続けていくことも大事ではないかというお話もいただきました。

あと、イベントに関しましては企画から関われば、小さな一部でもいいんですけども、祭りにいきなり参加だけではなくて、企画とかから関われば参加しやすく増えるのではないかということで、博多どんたくを例にいろいろお話もいただいたところです。

すみません、ちょっと拙い話で申し訳ございません。以上でございます。

【西野議長】　どうもありがとうございます。

続きまして、Ｂグループに移りたいと思います。報告をお願いいたします。

【山本教育文化課長】　教育文化課の山本です。

私のほうから、Ｂグループでの意見交換した内容の報告をさせていただきます。

Ｂグループとしましては「区民みんなが無理なく参加できる、地域との“つながり方”」というテーマでグループディスカッションを行ってまいりました。なかなかまとまらない課題かなというところもあるんですけども、まず、強制感を出さないことがとても大切であり、イベントごとに参加者を募るというようなことを行っている地域の紹介がありました。ＰＴＡさんのお話だったんですけども、ＰＴＡさんの組織がなくなったんですけれども、その中でどういうふう

にやっていくかということで、イベントごとに参加者を募っているということなんですが、そこでもリーダーシップのある方が必要で、そういう方がいらっしゃらないとなかなかまとまらないかなというようなお話だったかと思います。

情報発信をすることもとても大事で、そういうことも一生懸命やっているというようなお話をいただきました。その中で若い人たちは、どういう誘い方をされるといいのかなというような話になりまして、負担に思わないような誘い方、何かの役をさせられるとか、そういうのであれば無理ですけれども、単発のイベントであって、友だちを誘ってもいいようなそういう軽い乗りで参加できるようなイベントであれば参加しやすいのかなということでした。

ボランティアとして参加するということで行った場合であれば、やってほしいことをちゃんと指示をしてもらえれば行ったかいがあると。ボランティアで行ったけれども、何もしない、何もできないということではなくて、例えば、何々してほしいというような、そういうことをちゃんとリーダーの方から指示があるほうがいいというお話がありました。

転入された方がなかなか町会とか、そういう地域のところに入って行けないというようなお話もあったんですけども、新しく来た方は地域のイベントとかが分からないということもあるんですけども、どういう呼びかけがいいのかなというような話になりました。誰でも見られるような地域活動のカレンダー、そういうものがあればいいのではないかというようなお話でした。「何々がありますよ」、「何々に入ってくださいね」と、そういう声かけはあるんですけども、実際どうやってそこに入ればいいのかというのが分からない。声かけだけでその後どうすればいいのかが分からんというようなご意見がありました。

それからあとは、地域活動に入っていくためには、子ども会があればそこで親御さんたちがつながっていくというところもあるんでしょうけれども、子ども会の下の幼稚園児、幼児の段階でのグループがあればいいのではないかなというご意見もありました。子育てでつながりたい時期ですので、子ども会のもう１つ下の段階のそういうグループがあれば、自然と地域活動とかにも入っていけるのではないかなというご意見もありつつも、現状としては子ども会自体が解散している実情もあるというような話がありました。

それからあと、学生さんにも参加いただいていまして、学生さんたちは「何で情報を取るのか」というようなことに話が移りました。先ほどのＡグループの報告でもございましたけども、ＳＮＳは自分に興味のある情報しか取らないということもあるので、例えば、マンションのエントランスの掲示板とか、そういう紙媒体で誰でも目につくような、目に入るような、そういうもので広報するほうがいいのではないかというようなお話もありました。

続きまして、次の担い手をどうやって見つけていくのかが今は難しいですというようなご意見がありまして、60歳定年で地域デビューするのかと思いきや、そのまま、また別の仕事に行ってしまってなかなか地域のほうに入ってもらえないというような問題もありますよというお話もございました。

それから、あとは町会に入っていない人も参加ができるイベントを開催して、つながりづくりを進めていますと、そういう行事をたくさん行って、地域が何をしているのかということを積み重ねていくということもされているということがありました。イベントをたくさんしていくとどうしても負担感が出てくるので、例えば、大学生とマッチングをしまして、大学生に企画とかをお願いするということも１つの方法かなという話もございました。

あとは町会の方が新しい方に気を遣っているのかどうか、ちょっと分からないんですけども、今までやってきた方法で自分たちで完結をしてしまって、新しい人を受け入れないというような風潮があるというお話がありました。新しい人を受け入れるようなもっとフラットな、そういうことに変えていくということも必要ですねということもございました。

学生さんたちは、地域と関わることによって自分の学びになるようなこと、そういうものがあればいいのかなと。それから、顔が見えると入りやすい、参加者の様子であったりとか、同年代の人がいるとか、どういう方々がそういうイベントであったりとか、活動されているのか分からない状態ではなかなか入りづらい、顔が見えるほうが入りやすいのではないでしょうかというご意見もございました。

子どもたちが例えば関わるようなイベントがあれば、そこには親がついてくるということがあります。そういういろんな形で関わっていけば、活動のよさであったりとか、達成感であったりとか、そういうものが分かるんですけれども、なかなかそこまでの第一歩が難しいのかなというようなお話でした。

ちょっとまとまりがない報告になって申し訳ありません。このような内容での意見交換でございました。

以上でございます。

【西野議長】　どうもありがとうございます。

それでは、最後にＣグループの報告をお願いできますでしょうか。

【芝田保険年金課長】　Ｃグループで芝田と申します。

Ｃグループにつきましては、「住吉の魅力をもっと伝え、必要な情報が行き渡るまちにするには」という課題で話し合いをさせていただきました。

まず、アイスブレイクで「住吉の魅力はどんなのがありますか」というのを聞かせていただきますと、有名なところで言いますと住吉大社、あびこ観音とか、安全で清潔な生活環境であるとか、交通面が便利であって公園もたくさんある。あと長居公園、ちょっと東住吉区かもしれないんですけど、長居公園も近くにあるし、実はライブハウスとか音楽についてもいろんなところでイベントがあったり、住みやすくて病院やスーパーもたくさんある。公立大学もあって若者もたくさんいるということで、とてもいいところだということで言っていただいております。

あと、「必要な情報はどういうのがありますか」ということでお尋ねしましたところ、やはり皆さん今タイムリーな、なにわ大放水路のポンプが故障してしまっているというところが心配事として挙げられていました。あと、防災に係ることにつきましても、どこに避難したらいいのかというのがよく考えたらあまり分かっていないとか、あと大雨も今はどこで降るか分からないので、大雨がどこで降っていて、それに備える情報とかも欲しいということで出ました。

あと、そのような重要な情報をどうすれば伝えていけるんだろうと、必要な方に届いていくんだろうかというところに移ったんですけども、住吉区のＬＩＮＥに登録していただいている方がいらっしゃったんですけども、「登録はしたんだけれども通知があまり来ないです」というご意見であったりとか、「区役所からの情報は出ているんですけども、区役所単体で情報を発信していて、そこに地域などのリンクがあって地域からの情報発信とかも見られたら」という意見もありました。

万博が好きで、よく行ってた方がいらっしゃって、その方が万博の予約が最後のほうは取りにくかったんだけれども、ある方はとても上手に予約が取れていたと。それはどういうことかと聞いてみたら、インスタとかＸでリアルな情報を実は得ていて、空いているところにすっと予約を取っていたということが分かったと。そこで若い方に聞いてみたんですけど、Ｘ、インスタというので、どうやったら最新の情報を取りやすいんですかと聞きましたら、つぶやきとか関連するワード、裏技というので検索すると、結構その情報がさくさく出てきますよということを教えていただきました。

Ｘとかでは先ほどからいろんなチームで出ているんですけども、やはり自分が検索するとその検索に関連するものがどんどん出てくるんですけども、絶対に必要な情報、防災とかそういう知っておくべき情報もあるから、「ちょっとＸだけではね」というような意見もございました。

今で言いましたら必要な情報としましては、渋滞の情報であったり、冠水してしまっているところがどこかというようなところも情報として重要なので知っておきたいところなんですけども、そこもタイムリーで知ろうと思えばやっぱりＸが早いのではないかと。というのは、その現

場にいらっしゃって見た人がすぐ情報を上げますので、やっぱりＸが早いのではないかなということをおっしゃっていました。

区のホームページもあって、実はこのホームページはしっかり見たら、知りたい情報はそこにたくさんあるのではないですかというところなんですけども、確かに見ていけばあるんですけども、最新の情報で「これが大事だよ」というところに見に行くのが分かりにくいというところが出てきました。それを新着情報にどんどん載せていってくださったら、見やすいのではないですかというところだったんですけど、やっぱりそれを人の手でさくさく変えていくのには限界があると。じゃ、どうしたらいいんでしょうというところで、「ＡＩを使ったらどうですか」という意見もあったんですけど、ご存じのようにＡＩにつきましては、全てが正確な情報ではないので、「それを行政が使うのはどうなんですかね」というところになってきました。

そこで、ＡＩに頼らずにプラットフォームというのを行政のほうでつくりまして、そこに信用のできる方に登録していただくか何かのやり方で、信用のできる方が投稿できるようなプラットフォームをつくれば、地域の方であったり、行政であったり、施設の方であったり、いろいろ必要な情報がそこに集まって、安心して見られるのではないかという意見が出てきました。実は施設さんのほうではプラットフォームを既につくっておられて、施設の方たちがそこに入って情報を取るというようなことはやっていらっしゃるようでした。

あと、Ｘであったりとか、ホームページであったり、ＳＮＳというのはとても便利なんですけど、やはり高齢者さんとか、ＳＮＳを使い慣れていない方からしますと、回覧板とか広報紙というのは見ていらっしゃいますし、そこは重要で、やっぱり置いておく必要があると。それも重要ですということで意見がございました。

それでアナログ的に言いますと、掲示板というのも意外と皆さん見ていらっしゃるというところで、掲示板なんですけど、置くところに工夫してはどうかということで、絶対に駅の近くとか通りがかって見るところ、見やすいところに置くというところも重要ではないかと。文章ばかりがあってもなんなので、イラストとか写真とか、ぱっと見て何の情報でしょうというのが分かるような表示の仕方も掲示板であったら見やすいのではないかというところで、そこにプラスＱＲコードを大きくつけておけば、その情報を詳しく知りたい人は入っていけるのではないかというような意見もございました。

あと、情報をたくさん出していくんですけれども、せっかくたくさん情報がある中でも、やはり区民の方が情報を取りに行こうとしなければ、見られるものも見られない、せっかくあるものが活用していただけないということになりますので、区民の方たちにも情報を取りに行ってい

ただけるような、取りに行こうというような意識をつくっていくというところも大事ではないですかというような意見もございまして、その意識をつくっていくというところで、行政が何か後押しできないかなというような意見は出てきたんですけど、具体的にというところがなかなか難しかったです。

人とのつながりというのもやっぱり大事で、自分はＳＮＳとかできて何でも分かるんだけれども、近くの知っている人にそれを伝えていくということも大事ではないかということが出ました。

ちょっとまとめにはならないんですけども、たくさんご意見をいただきまして、ありがとうございました。

以上です。

【西野議長】　どうもありがとうございます。

すごく長い議論でしたけど、丁寧にまとめていただいてどうもありがとうございます。

それでは、先ほど発表していただいた内容に対して、皆様から何か追加でご意見やご質問等ありましたらお伺いできればと思いますが、いかがでしょうか。

恐らくしゃべり足りないと思うんですけれども、今回、Ａグループ、Ｂグループ、Ｃグループと３つありますけど、結構共通して出てきた言葉もあったかなと思います。福祉ですとか、つながりですとか、情報、そういったものを共有するということがすごく大事なんだろうなと思いました。まさにこの場が皆さんの状況を共有するということ、それぞれのご専門を共有するということができたので、なかなかこの場では続きはあれかもしれないですけど、ぜひこの会が終わった後でもご議論いただければと思っております。

それでは、本日の区政会議全体を通しまして、改めて皆様から何かご意見、ご質問等ありましたらお伺いできればと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

すみません、それでは時間もございますので、本日の議案は全て終了にしたいと思います。

それでは、その他の事項に入ります。区役所より説明をお願いいたします。

【西（司会）】　西野議長、委員の皆様、大阪公立大学の皆さん、ありがとうございました。

それでは、その他の事項につきまして、私から説明申しあげます。

令和８年度第３回住吉区区政会議は令和９年２月４日木曜日に開催します。令和８年度第２回住吉区防災専門会議は10月７日水曜日、令和８年度第２回住吉区地域福祉専門会議は10月22日木曜日、令和８年度第２回住吉区総合教育会議は12月８日火曜日開催予定です。

以上です。

それでは、ここで本日ご出席いただいております議員より一言お願いします。

中田議員、よろしくお願いいたします。

【中田議員】　どうも皆さん、お疲れさまでございました。いろんなご意見をお聞かせいただきました。

本日のテーマは究極の自治体の抱える問題だと思います。これが解決できれば、最先端を進む自治体になるのではないかと思います。ご意見を聞きながら、いろいろなことを考えましたが、皆さん、各グループで大体共通の課題、つながりが薄くなっている、また、情報が過多になっていて、それを取りに行く人のいろいろレベル感があって、ちぐはぐになって情報発信をしても、どれを取るかでそれぞれの考えに偏ってしまうというようなことが課題かなと感じました。

私がここで解決策を述べるということも当然ないんですけど、思い切って昭和の時代を、アナログの時代を思い出して、昭和の時代、アナログの時代は情報もそんなにないし、隣近所と付き合っていけへんかったら、いわゆるコミュニケーションを取っていかないといけないという時代であったかと思います。その時代は本当にこれから頑張っていこう、豊かになっていこうという考えがあった時代かと思うんですが、思い切って今度のテーマとして、昭和のアナログの時代はどうだったかというのを顧みるような形のこんな討論会というか、グループディスカッションをしてもどうかなと思います。何かそこからヒントになるようなことが得られるのではないかと、今日ディスカッションを拝見させていただいて思ったところでございます。

本当に皆様、お疲れさまでございました。ありがとうございました。

【井上議員】　本日は区政委員の皆さん、また、区役所の職員の皆さん、遅くまでの会議大変お疲れさまでございました。私はＡグループのディスカッションを拝聴させていただきました。長年地域活動に携わってこられた先輩方の大変重みのある発言と、そして、公立大学の学生の皆さんのフレッシュな視点からの率直なご意見も拝聴いたしまして、大変勉強になりました。Ａグループのテーマが「住吉で安心して暮らし続けるために、困りごとを減らすには」ということなんですけど、今、中田先生も究極のテーマだとおっしゃいましたけれども、今日参加している議員は３人ですけども、我々はこれを達成するために存在してございますので、皆さんと連携をさらに強めていきたいということを改めて思った次第でございます。

私の先輩の議員からは、区役所、市役所というのは、区民の役に立つところなんや、市民の役に立つところなんやということをよく諭されましたけれども、行政機関との関わりを持つ議員といたしましても、もっともっと住みよい住吉になるように精進してまいりたいと思った次第でございます。今後ともどうぞよろしくお願い申しあげます。

【伊藤議員】　皆様、お疲れさまでございます。

いろんなご意見を聞かせていただいて、本当に参考になることがたくさんありまして、気になることもたくさんあるんですけれども、今日、上村会長が最初におっしゃった、住吉区で住吉連合は１番巨大です。そこで学校を２つ抱えていて、選択制の子どもがたくさんいると。私も選択制の子どもを育てていたんですけれども、選択制は今１割ぐらいの子どもが校区外の学校に通っているんですけれども、年々増えていって、行っている学校ではそこの地域の情報がもらえない。住んでいるところの情報は学校に行ってないのでもらえないというのを経験しました。紙媒体で配っていた時代もあったんですけど、今は全部ミマモルメでチラシが来るんですよね。そうなると余計にそこの学校に入っていないと情報が来ないんですよね。そういう子どもたちが10％以上いるということなので、ぜひ教育文化課長、各学校さんと汗をかいていただいて、そういう子どもたちに自分の住んでいる地域と行っている学校地域の情報が入るようにやっていただければと思いました。

先ほど中田議員もおっしゃった、思いっ切り振り切ってしまえという言葉、非常に重要だなと思います。先ほどＡグループでおっしゃっていた、イベントに参加してもイベントを楽しんで帰るだけで、そこで何かつながりをあえてつくってまでは帰れないとおっしゃっていて、ぜひ今年の区民まつりで婚活ブースみたいなのをやってみたらどうかなと、振り切っていただきたいと思いました。皆さん、お疲れさまでございました。ありがとうございます。

【西（司会）】　最後に区長より一言お願いします。

【橘区長】　西野議長はじめ委員の皆様、そして、大阪公立大学の学生の皆さんには多岐にわたる数多くのご意見を頂戴し、本当にありがとうございました。学生の皆さんはとても緊張されたのではないかなと思いますが、区を代表する数多くの委員の皆様と意見交換されたことはとてもよい経験、あるいは学生の思い出として残るのではないかなと思います。

これからもいろんな分野に興味を持っていただいて、挑戦もいただき、そしてまた、住吉区政にご協力をいただければと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本当に今日はありがとうございました。

本日、頂戴いたしました皆様方の意見でございますが、区政を推進する上で、また、2029年度からの次期住吉区将来ビジョンを作成していく上で、とても貴重なご意見をいただけたと考えてございます。今後も引き続き、私ども住吉区役所職員が現行のビジョンを実現するべく区政を推進してまいりたいと考えてございますので、引き続き、お力添えを賜ればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は長時間本当にありがとうございました。お世話になりました。

【西（司会）】　これで本日の会議は終了いたしました。

委員の皆様には円滑な会議進行にご協力いただきありがとうございました。これで第２回住吉区区政会議を終了します。本日は長時間にわたり、皆様、どうもありがとうございました。

また、区政会議に関するアンケートを本日記入いただいた委員におかれましては、お帰りの際に受付の職員にお渡しください。

――　了　――